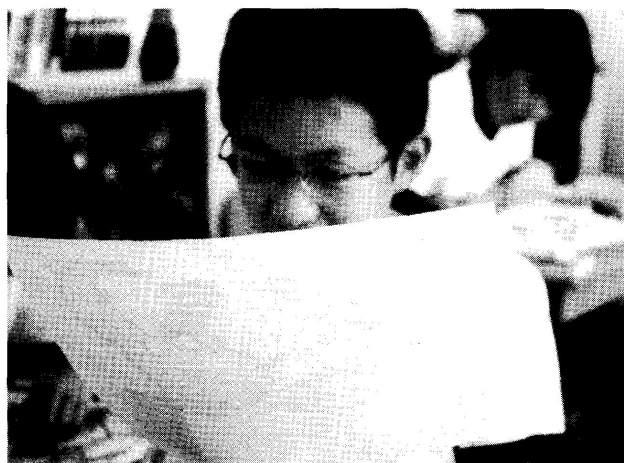


社会科の研究

今井 渉



キーワード

社会認識の創造 意志決定・価値判断 時間軸・空間軸

主張

社会科で培う創造的な知性を「よりよい社会生活を具現するための新たな社会認識を創り出す知性」と押さえた。社会を創り出す人間の思いや願い・取組に目を向け、思いや願い・取組の基盤となっている「社会認識」をとらえ、自らもよりよい社会生活の具現に向かう「社会認識」を創り出していこうとする知性に着目したのである。

これまでの人間の知恵や努力が生み出してきた社会、これから人間の創意と工夫がつくりだす社会として、過去・現在・未来の人々の取組をつなげ、自分もその中で生きる一人だということを自覚していく姿を期待した。

I よりよい社会生活を具現するための 「社会認識」を創り出す社会科

1. 「創造的な知性を培う」社会科の学び

研究主題「創造的な知性を培う」のもとでの社会科では、社会的事象の関係を把握したり、社会的事象と自分との関係性の把握を大切にする姿にとどまらず、よりよい社会を構想し、構想した社会をいかに実現していくかを追求する姿を目指していく。

「構想した社会の実現に向けた追求」とは、最近の社会科の授業で大切にされている「意志決定・価値判断」と重なる。しかし、多くの社会科授業で行われている「意志決定・価値判断」は、「外国の品物を輸入するべきかどうか」等、子どもにとって実感をもちにくい対象を教材にして、短絡的に行われている場合が多い。

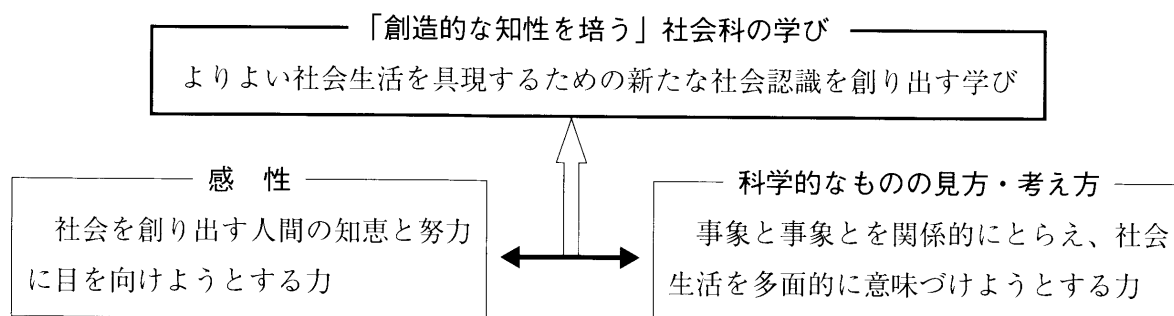
これは、人間の営みがつながり、積み重なることによって社会が構成されているという視点が欠けているためと考える。言い換えれば、人間の知恵と努力が生み出してきたこれまでの営みを軽視して、「将来どうあるべきか」を早急に問いすぎているのである。

研究主題「創造的な知性を培う」のもとでの社会科の授業では、「将来の姿・在り方」を安易に問うのではなく、これまでの人間の知恵や努力が生み出してきた社会、これからの人々の創意と工夫がつくりだしていく社会として、過去・現在・未来の人々の取組をつなげ、自分もその中で生きていく一人だということをとらえていく姿を求めている。

そこで、「創造的な知性を培う」社会科の学びを「よりよい社会生活を具現するための新たな社会認識を創り出す学び」と押さえた。社会を創り出す人間の思いや願い・取組に目を向け、思いや願い・取組の基盤となっている「社会認識」をとらえ、自らも自分なりに「社会認識」を創り出していこうとする学びに着目したのである。

2. 社会科ではぐくみたい「感性」「科学的なものの見方・考え方」

「よりよい社会生活を具現するための新たな社会認識を創り出す学び」を求めて、育みたい感性を「社会生活を創り出す人間の知恵と努力に目を向けようとする力」、科学的なものの見方・考え方を「事象と事象とを関係的にとらえ、社会生活を多面的に意味づけようとする力」と押さえる。



社会生活を、人々の取組を中心とした時間軸でとらえようとする感性、人と人との結びつきを中心とした空間軸でとらえようとする科学的なものの見方・考え方をバランスよく統合していくことにより、「よりよい社会生活を具現するための新たな社会認識を創り出す学び」に迫っていく。

「創造的な知性を培う」ための「人の営み」に重点を置いた学習の段階を、次のように考えた。

＜ 学 習 の 過 程 ＞

- (4) よりよい社会生活の具現に向かう自分なりの思いや願い、取組を明確にする。

科学的な
ものの見方・考え方

よりよい社会生活具現への意欲の高まり

Ⅱ 実践の概要

第6学年

「江戸幕府と大名統制 ～家康・秀忠と福島正則～」

1. 先人の取組・思いの基盤となっていた社会認識を抽出し、これからの「生き方・在り方」に生かす学び

本単元では、江戸幕府の幕藩体制を確立させた「大名統制」を中心的な歴史的事象とし、人物としては、「徳川家康」「徳川秀忠」「福島正則」を取り上げる。

「家康」「秀忠」の行った配置換えの意味を、「福島正則」の広島城への配置換え、改易からとらえていく。既習の鎌倉幕府の政策との比較を行ったり、江戸時代の社会背景を考えたりしながら、大名統制が「安定した社会を築くための政策」であったことを見出していく姿を期待している。

歴史上の人物の思いや取組を関係づけて学ぶ中で、「社会を創り出す人間の知恵と努力に目を向けようとする力」を働かせ、「家康」「秀忠」の政策がどのような社会認識を基盤にして行われていたのかをとらえ、「事象と事象とを関係付け、社会生活を多面的に意味づけようとする力」を働かせ、安定した世の中を築くために大切なことについて、自分なりの「社会認識」を創りだしていく姿を願っている。

2. 単元の構想

(1) 単元の目標

徳川家康や秀忠の行った大名の配置換えについて調べ、配置換えの意味を福島正則の広島城への配置換え、改易から明らかにしていく中で、江戸幕府は大名統制を行うことで、大名の反乱や争いを防ぎ、安定した社会を築いていったことを理解し、安定した社会を築くためには、過去の社会を反省的に考察し生かしていくことが大切なことに気づく。

(2) 追求の構想（8時間）

第1次 江戸幕府の始まり ～徳川家康の願いと大名統制～

- ① ◎徳川氏は各地の大名を従わせ安定した時代をつくるためにどんなことをしたのだろう
- ② <参勤交代> <大名の配置換え> <厳しい処罰>
- ③ 関ヶ原の戦いで勝った福島正則を家康はどのように処遇したのかな

第2次 幕藩体制の確立に向けて ～徳川秀忠と福島正則と牧野忠成～

- ④ ◎幕府は、関ヶ原の戦いで活躍した福島正則に対してご恩を与えたのだろうか
- ⑤ <徳川家康は福島正則を広島50万石の城主にする>
- ⑥ 2倍近く石高が増えているのだから、
鎌倉幕府と同じご恩を与えたと言える。 石高が2倍近く増えていても江戸から
離れている。ご恩とは言えない。
- <福島正則は広島50万石から信州川中島に改易となる>

⑦ 第3次 幕藩体制の確立

- ⑧ ◎幕府の大名統制により、江戸時代はどんな社会になっていったのだろうか

3. 授業の実際

(1) 徳川家康が福島正則を尾張から広島に配置換えした理由は何だろう

今年度から6年生の歴史学習を、「政治や社会の動きの歴史」、「外国とのつながりの歴史」、「文化の歴史」とテーマ的にカリキュラム編成していくこととした。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備 考
行事	全校朝礼の会 春の行事 運動会	春の行事 運動会	春の行事 運動会	春の行事 運動会	春の行事 運動会	春の行事 運動会	春の行事 運動会	春の行事 運動会	春の行事 運動会	春の行事 運動会	春の行事 運動会	春の行事 運動会	
教科	国語 社会 算数 理科 英語	国語 社会 算数 理科 英語	国語 社会 算数 理科 英語	国語 社会 算数 理科 英語	国語 社会 算数 理科 英語	国語 社会 算数 理科 英語	国語 社会 算数 理科 英語	国語 社会 算数 理科 英語	国語 社会 算数 理科 英語	国語 社会 算数 理科 英語	国語 社会 算数 理科 英語	国語 社会 算数 理科 英語	
単元	国語 社会 算数 理科 英語	国語 社会 算数 理科 英語	国語 社会 算数 理科 英語	国語 社会 算数 理科 英語	国語 社会 算数 理科 英語	国語 社会 算数 理科 英語	国語 社会 算数 理科 英語	国語 社会 算数 理科 英語	国語 社会 算数 理科 英語	国語 社会 算数 理科 英語	国語 社会 算数 理科 英語	国語 社会 算数 理科 英語	

社会認識を基盤として新たな社会をつくりだしていく人々の営みを、過去・現在・未来と連続的に学んでいくために、学習対象を3つのテーマから絞り込んでいったのである。その中では、学習していく時代と前の時代とを比較しながら、社会の特徴をとらえていくことを大切にしたい。

本単元「江戸幕府と大名統制」では、関ヶ原の戦いに勝ち、征夷大将軍となった徳川家康がどのような願いをもったのかを予想し合うことから学習をスタートした。

家来から「信頼されたい」と思ったのではないか。

徳川の天下をいつまでも続けたいと思ったのではないか

家来にご恩を与える等して、家来をしっかりに従えようとした？

戦いに明け暮れた戦国時代後の世の中であることから、「戦いのない安定した世の中を築きたいと考えたのではないか」と予想する子どもたち。安定した世の中を築くためには「将軍と家来（大名）との関係」が大切であると考えている。

そこで将軍と大名との関係を具体的に調べていくために、関ヶ原の戦いで活躍した「福島正則」を取り上げて学習していくことにした。



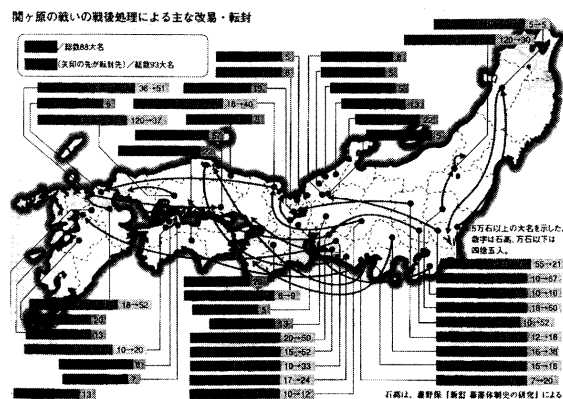
福島正則の肖像画

人物の心情的なつながりを大切にして追求を進めていく咲子さんは、「逆らえないようにしながら、信頼を高めていったのではないか」と考え、鎌倉幕府の「ご恩と奉公の関係」と重ねて、徳川家康の行ったことを予想していった。

資料をもとにして調べていくと、「福島正則が尾張20万石から広島50万石の大名に配置換えになったこと」がわかってきた。

「福島正則はご恩を与えられたと言えるのだろうか」と投げかけると、首を傾けて考え込む咲子さん。

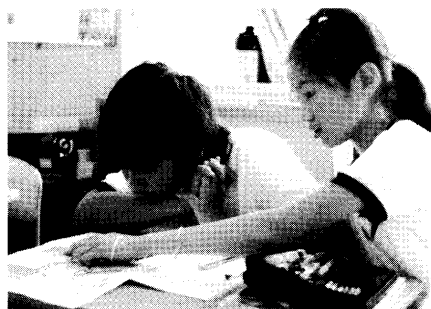
「ご恩と奉公の関係」では説明しきれないことから福島正則の配置換えの意味について問題意識を高めていったのである。



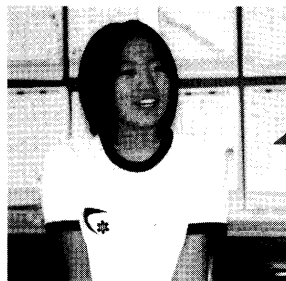
関ヶ原の戦い後の大名の改易・転封
（「江戸時代館」小学館より）

(2) 徳川家康の考えは秀忠にどのように引き継がれ、福島正則はどうなっていったのかな

関ヶ原の戦いで活躍した福島正則が広島50万石の大名になっている。これは鎌倉幕府の行ったようなご恩と奉公の関係で大名を治めようとしたと言えるのかな。でも江戸から遠ざけているから、ご恩とも言い切れないな。20万石から50万石に領地を増やしたのはご恩とも言えるし、家康の大名の従え方をどう考えたらいいのだろう。



一人で考え込んだり、隣の仲間と話し合ったりして家康の大名の従え方について考える咲子さん。徳川家康の将軍としての立場と福島正則の大名としての立場の双方に身を置き、「社会を創り出す人間の知恵と努力に目を向けようとする力」を働かせ、徳川家康の行った大名配置換えの意味について問いを持ち始めた姿である。



福島正則はとても強い人物。福島が不満をもたないようにして、家康の次の将軍に対しても裏切らないようにした。

家康の信頼する親藩や譜代大名は、江戸の近くに置かれている。ご恩と奉公との関係とは違う。



福島正則が広島城に配置換えされたことの意味を話し合っていく中で、「家康は全国の名大を親藩、譜代大名、外様大名と分けて、大名を治めようとしていたこと」、「福島正則は外様大名であったこと」が分かってきた。

咲さんは、仲間の話を聞きながら、「福島正則は力は認められていたけど、信頼はされていない」とノートにメモした。

さらに、広島城への配置換えの意味について話し合っていくと、明子さんは、「福島正則を遠くに置いたのは、力の強い武士を江戸の近くに置いておくと、2代目が倒される可能性があるからではないか」と発言した。

咲さんは、明子さんの考えをうなずきながら聞き、「信頼されていない福島正則は、2代目になったら自分から攻めていったんじゃないかな」とつぶやく。



学級全体として、2代目の徳川秀忠と福島正則との関係から、幕府と大名との関係をさらに調べていこうという様子が見られた。そこで、「福島正則はその後どうなったのか」をはっきりしていくことにした。

(3) 幕府の安定を図るためには、きまりと罰によって大名を統制していくことが必要なんだな

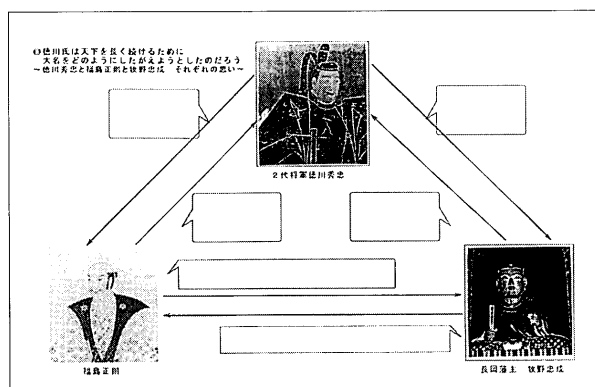
2代目将軍である徳川秀忠が福島正則に対して行ったことを資料をもとにして調べていった。

「徳川秀忠は、『大名は勝手に城をつくったり、修理したりしてはいけない』等の武家諸法度を定めたこと」

「福島正則は広島城を勝手に修理したとして、改易（広島城を取り上げられたこと）されたこと」が分かってきた。

「ひどい」、「世の中を安定させるためには必要」等の意見が出され、秀忠の政治について意見が分かれる。

そこで、「徳川秀忠」「福島正則」「牧野忠成（長岡藩
の大名、改易を命令する使者となった。福島正則の義
兄）」、三者それぞれの立場から、「福島正則改易の意味」
について考え合うことにした。



徳川秀忠は、力で統制していくことでよりよい社会をつくることができるという考えだ。

福島正則は、互いの信頼関係を大切にしている。秀忠が自分を信頼していないと感じ、改易されても仕方ないと思ったのでは。

牧野忠成は、力で押さえる秀忠と信頼を大切にする正則に挟まれている感じだ。きっと悩んだのではないが。

学習プリントに各自の考えをまとめていくと、三者それぞれの大切にすることが見えてきた。

プリントを生かして、徳川氏が為政者として大切にすることを話し合っていくと、大名統制に批判的であった咲子さんも、「罰を与えることは、将軍の力を示し、世の中を安定させるためには大切なことだとは思う。」と発言した。安定した世の中を築くための「統制」に目を向けてきたのである。

しかし、続けて「江戸幕府のやり方を調べてみて、鎌倉幕府のご恩を与えるだけでは駄目というのは分かってきたけど、罰を与えるだけでは、大名にすごくストレスがたまる。私はこのやり方には賛成できない。」と発言した。江戸幕府の特徴である「統制」をとらえながらも、よりよい社会実現のためには「信頼」も大切なのではないかと考えている咲子さんである。

(4) 幕府と大名には、本当の意味での信頼関係が大切だと思うな

単元の終わりのノートで咲子さんは「力で従えることにより、大名がしっかりとし、世の中も安定したのだと思う。でもそのやり方では、将軍と大名とが信頼で結ばれているような社会は作れないと思う。信頼がないから最後は外様大名に滅ぼされている。次の時代では、厳しさも大切にしたいと思うけど信頼を高めるための方法をとったと思う」とまとめた。

「社会を創り出す人間の知恵と努力に目を向けようとする力」を働かせ徳川家康や秀忠の政治の行い方の工夫をとらえようとし、「事象と事象とを関係的にとらえ、社会生活を多面的に意味づけようとする力」を働かせ、「安定した世の中を築くためには『統制と信頼』が大切」という「社会認識」を創りだしていった咲子さんである。

Ⅲ 成果と課題

成果 1

「社会生活を創り出す人間の知恵と努力に目を向けようとする力」を働かせていくようにするためには、①中心的に取り上げた人物と対立する人物を取り上げ、人物同士の関係を両者の思いからとらえていき、中心的に取り上げた人物の知恵や努力を強調していくこと、②異なる2つの時代を取り上げていくことで、人物の知恵や努力をその社会における特徴としてとらえていこうとすること、の2点が大切であることが見えてきた。

成果 2

「事象と事象とを関係的にとらえ、社会生活を多面的に意味づけようとする力」を働かせていくようにするためには、①中心的な人物、対立する人物、その間に位置する人物がかかわる社会的事象を取り上げ、それぞれの立場から事象の意味づけをしていくこと、②中心的な人物の取組と社会の動き、そこで生きる人々の思いとを関係づけて、中心的な人物の取り組みに対する評価をし合うこと、が大切であり、そのことにより社会認識が創り出されていくことが見えてきた。

課題

「社会生活を創り出す人間の知恵と努力に目を向けようとする感性」、「事象と事象とを関係的にとらえ、社会生活を多面的に意味づけようとする見方・考え方」を働かせるための授業構成（働きかけ）について、成果1・2を踏まえて今後の授業の中で明らかにしていく必要がある。

また1つの単元で創りだしていった「社会認識」が、「次の単元でどのように生かされるか」、「年間を通してどのように培われ、子どもの社会生活における行動に生かされていくか」をカリキュラム編成の視点として考えていく必要がある。

<主な参考文献>

- 北 俊夫 1999「歴史における理解と愛情を育てる小学校・歴史学習の改革」明治図書
- 門脇 厚司 2002「学校の社会力」朝日選書
- 岩田 一彦 2001「社会科固有の授業理論」明治図書
- 上田 薫 1992「個を育てる力」黎明書房